



2023年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年11月14日

上場会社名 株式会社ROBOT PAYMENT 上場取引所 東
 コード番号 4374 URL <https://www.robotpayment.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 清久 健也
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 久野 聡太 TEL 03(5469)5787
 四半期報告書提出予定日 2023年11月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

1. 2023年12月期第3四半期の業績（2023年1月1日～2023年9月30日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第3四半期	1,603	26.7	181	—	181	—	125	—
2022年12月期第3四半期	1,266	25.8	△28	—	△28	—	△29	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年12月期第3四半期	33.49	—
2022年12月期第3四半期	△7.77	—

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、条件付発行可能潜在株式として取り扱われる新株予約権であり、所定の条件を満たしておらず希薄化効果を有していないため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年12月期第3四半期	5,099	748	14.6
2022年12月期	4,641	554	11.9

(参考) 自己資本 2023年12月期第3四半期 745百万円 2022年12月期 554百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年12月期	—	0.00	—		
2023年12月期（予想）				0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年12月期の業績予想（2023年1月1日～2023年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,190	26.5	210	—	210	—	144	—	38.52

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年12月期3Q	3,761,566株	2022年12月期	3,761,566株
② 期末自己株式数	2023年12月期3Q	115株	2022年12月期	66株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年12月期3Q	3,761,485株	2022年12月期3Q	3,761,539株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料の入手方法について）

当社は、2023年11月14日に第3四半期決算補足説明資料を当社のウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
(会計方針の変更)	6
(追加情報)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国の経済は、企業収益や個人消費、インバウンド需要がともに回復基調で推移し、ポストコロナ時代に向けて経済・社会システムが再構築されていく一方で、不安定な国際情勢や物価高の影響により、社会全体が依然として先行き不透明な状況が続いております。

そのような不透明な状況下においても、ウィズコロナの生活様式の定着によりリモートワークや業務効率化を目的としたクラウドサービス利用の拡大により、当社サービスの需要も高まるものと認識しております。当社は「お金をつなぐクラウドで世の中を笑顔に」というビジョンの下、コアコンピタンスである「決済」を軸としたサービスとして「サブスクペイ」・「請求管理ロボ」を引き続き展開し、企業における様々な課題を解決することを目指して事業運営を進めております。具体的には、以下の通りであります。

ペイメント事業においては、「サブスクペイ」は引き続き商取引のオンライン化という構造的なトランスフォーメーションの影響も受け、新規顧客獲得及び既存顧客の取扱高が好調に推移しております。

フィナンシャルクラウド事業においては、企業におけるDXの推進や、2023年10月1日施行のインボイス制度など法制度改正による請求書を電子化して保存するニーズの高まりを受け、引き続き新規顧客獲得が順調に推移しております。

また、両事業ともに順調に売上高が拡大し、利益創出に向けた費用コントロールをしつつも、将来に向けたさらなる事業拡大のための先行投資も実行しております。

以上の結果、当第3四半期累計期間の経営成績につきましては、売上高1,603,936千円（前年同期比26.7%増）、営業利益181,579千円（前年同期は28,411千円の営業損失）、経常利益181,936千円（前年同期は28,811千円の経常損失）、四半期純利益125,962千円（前年同期は29,214千円の四半期純損失）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(ペイメント)

当セグメントにおきましては、商取引のオンライン化や利用者層の広まり等により、わが国におけるEC市場の拡大の追い風を受け、「サブスクペイ」の既存顧客の取扱高や決済処理件数が拡大したことや、継続的なサービス機能拡充、積極的なマーケティング施策の実行、営業体制の強化による営業活動の拡大などを背景とした「サブスクペイ」の新規顧客の獲得により、リカーリング収益が順調に積み上がりました。また、新サービスの請求書カード払いサービス「1click後払い」の収益も寄与しました。この結果、売上高は999,090千円（前年同期比30.2%増）となり、セグメント利益は、主にマーケティングの強化による広告宣伝費の増加、営業人員の増加に伴う人件費の増加を売上高の増収効果が上回り、414,222千円（前年同期比30.8%増）となりました。

(フィナンシャルクラウド)

当セグメントにおきましては、上述したマクロ環境の変化によって、より一層高まっている企業におけるクラウドサービスによる業務効率化ニーズ、デジタルトランスフォーメーションへの関心の高まりなどを受け、「請求管理ロボ」の継続的なサービス機能拡充、積極的なマーケティング施策の実行、営業体制の強化による営業活動の拡大などを背景とした新規顧客の獲得を推進するとともに、既存顧客の解約防止への取り組みを進めることで顧客数を増加させてまいりました。この結果、売上高は604,846千円（前年同期比21.2%増）となり、セグメント利益は、主にマーケティングの強化による広告宣伝費の増加、営業人員や開発人員の増加に伴う人件費の増加があったものの売上高の増加により、59,206千円（前年同期は92,638千円の損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における流動資産は前事業年度末に比べ380,570千円増加し、4,514,222千円となりました。これは主に、取扱高の増加により前渡金が334,600千円増加したことによるものです。

固定資産は前事業年度末に比べ77,403千円増加し、585,639千円となりました。これは主に投資有価証券の時価の上昇により投資その他の資産が60,076千円増加したことによるものです。

この結果、資産合計は前事業年度末に比べ457,973千円増加し、5,099,861千円となりました。

(負債)

当第3四半期会計期間末における流動負債は前事業年度末に比べ263,353千円増加し、4,344,336千円となりました。これは主に、取扱高の増加により預り金が102,162千円増加したことによるものです。

固定負債は前事業年度末に比べ497千円増加し、6,567千円となりました。これは主に、投資有価証券の時価の上昇により繰延税金負債が6,333千円増加したことによるものです。

この結果、負債合計は前事業年度末に比べ263,851千円増加し、4,350,904千円となりました。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産合計は、前事業年度末に比べ194,122千円増加し、748,957千円となりました。これは主に、四半期純利益125,962千円の計上によるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、上記の通り、フィナンシャルクラウド事業が堅調に推移しつつ、主にペイメント事業の売上高の想定以上の好調に伴い、2023年8月14日に上方修正を行った業績予想を上回る進捗を鑑みて、2023年12月期（2023年1月1日～2023年12月31日）の業績予想を再度上方修正しております。

詳細につきましては、本日（2023年11月14日）別途開示いたしました「業績予想の上方修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,734,667	2,725,649
売掛金	169,133	196,706
前渡金	1,070,679	1,405,279
前払費用	96,297	67,190
未収入金	74,072	142,576
その他	9,541	965
貸倒引当金	△20,739	△24,146
流動資産合計	4,133,652	4,514,222
固定資産		
有形固定資産	10,428	7,342
無形固定資産	414,682	435,095
投資その他の資産		
その他	85,232	146,437
貸倒引当金	△2,107	△3,235
投資その他の資産合計	83,124	143,201
固定資産合計	508,235	585,639
資産合計	4,641,887	5,099,861
負債の部		
流動負債		
買掛金	19,142	13,244
1年内返済予定の長期借入金	32,244	14,077
未払金	84,323	150,675
未払費用	38,428	23,235
未払法人税等	—	62,578
未払消費税等	65,956	98,348
契約負債	74,339	89,685
前受金	1,184	832
預り金	3,764,089	3,866,251
賞与引当金	—	17,713
その他	1,275	7,696
流動負債合計	4,080,983	4,344,336
固定負債		
長期借入金	6,070	—
繰延税金負債	—	6,333
資産除去債務	—	233
固定負債合計	6,070	6,567
負債合計	4,087,053	4,350,904
純資産の部		
株主資本		
資本金	222,350	222,350
資本剰余金	122,350	122,350
利益剰余金	191,739	317,701
自己株式	△127	△217
株主資本合計	536,313	662,185
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	17,842	83,087
評価・換算差額等合計	17,842	83,087
新株予約権	679	3,684
純資産合計	554,834	748,957
負債純資産合計	4,641,887	5,099,861

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
売上高	1,266,209	1,603,936
売上原価	141,966	162,165
売上総利益	1,124,243	1,441,770
販売費及び一般管理費	1,152,654	1,260,191
営業利益又は営業損失(△)	△28,411	181,579
営業外収益		
受取利息	37	38
その他	26	476
営業外収益合計	64	515
営業外費用		
支払利息	416	158
その他	48	—
営業外費用合計	465	158
経常利益又は経常損失(△)	△28,811	181,936
特別利益		
新株予約権戻入益	—	519
特別利益合計	—	519
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△28,811	182,456
法人税等	403	56,493
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△29,214	125,962

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。時価算定会計基準適用指針の適用による四半期財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り)

当第3四半期累計期間において前事業年度の有価証券報告書の(追加情報)(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り)に記載した新型コロナウイルス感染症の今後の拡大や収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期財務 諸表計上額 (注2)
	ペイメント	フィナンシャ ルクラウド	計		
売上高					
リカーリング売上	742,826	460,761	1,203,587	—	1,203,587
ショット売上	24,387	38,233	62,621	—	62,621
顧客との契約から生じる収益	767,214	498,995	1,266,209	—	1,266,209
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	767,214	498,995	1,266,209	—	1,266,209
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	767,214	498,995	1,266,209	—	1,266,209
セグメント利益又は損失(△)	316,761	△92,638	224,122	△252,533	△28,411

- (注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△252,533千円は、おもに各報告セグメントに配分していない全社費用であり、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。
3. リカーリング売上は、顧客との契約期間にわたってサービスの提供に基づき、繰り返し発生する性質の収益で、主なものとして月額利用料などがあります。
4. ショット売上は、リカーリング売上とは違い、繰り返し発生する性質の収益ではないもので、主なものとして、顧客がサービス利用開始にあたっての初期費用や導入支援費用などがあります。

Ⅱ 当第3四半期累計期間（自 2023年1月1日 至 2023年9月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期財務 諸表計上額 (注2)
	ペイメント	フィナンシャル クラウド	計		
売上高					
リカーリング売上	967,540	582,428	1,549,968	—	1,549,968
ショット売上	31,549	22,417	53,967	—	53,967
顧客との契約から生じる収益	999,090	604,846	1,603,936	—	1,603,936
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	999,090	604,846	1,603,936	—	1,603,936
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	999,090	604,846	1,603,936	—	1,603,936
セグメント利益	414,222	59,206	473,428	△291,849	181,579

- (注) 1. セグメント利益の調整額△291,849千円は、おもに各報告セグメントに配分していない全社費用であり、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。
3. リカーリング売上は、顧客との契約期間にわたってサービスの提供に基づき、繰り返し発生する性質の収益で、主なものとして月額利用料などがあります。
4. ショット売上は、リカーリング売上とは違い、繰り返し発生する性質の収益ではないもので、主なものとして、顧客がサービス利用開始にあたっての初期費用や導入支援費用などがあります。